



幼稚園生活3週目です。登園の日はワクワク・ドキドキの日でした。がまん出来ず泣いてしまうおとこたちもいました。

でも、じーっとがまんを続けているおとこたちも沢山ありました。

毎年4月の新学期スタートした頃の情景です。

温かく迎えます。お休みせず送り出しましょう。

■年少児のおとこたちの園生活も4日間、4回経験してきました。

■つぼみ組のおとこたちの園生活も4日間で4回目になりました。

例年ですとつぼみ組出身が半数なので、その子たちがお手本となってくれていたのですが、2ヶ月の間は家庭での生活リズムでした。

2歳になってはじめてママの手を離れての集団生活を経験するつぼみ組さんたち。

幼稚園生活のリズムに合わせるには少しばかりの負担になったようです。



これからゆっくりと時間をかけて自分で出来ることが増えて行きます。大きな育ちが待っております。応援してください。

小さな巨人60名です。

でも、日が経つにつれて思い出して来て新しいおとこたちへのお手本になっていております。

- 「靴を脱いで、靴箱へ」「上靴を履く」
 - 「帽子とカバンを自分の場所へ」
 - 「朝の会に参加する!」「自分の席をおぼえる!」
 - 「椅子にすわって、いられる!」 まだまだあるけど
- これ迄の園生活で出来るようになったかな?

分散保育のおかげでしょうか、年少組の「教室」には年中・年長とフリーのスタッフたちの手もあり、毎日余裕の幼稚園生活です。

生きる力を育てよう

玉川大学の創設者小原 國芳先生は「^{あそび}こどもは遊びをしないと馬鹿になる」を直筆で掛け軸に描いて下さいます。この意図を掘り下げてみませんか。

こどもにとって「あそび」とは「生活の全て」と言って良いでしょう。また、大人にとってのあそびとは息ぬきと言えて良いでしょう。全く目的が違って意味も違うのです。こどもにとってのあそびを生活の全てと言いましたが、これからの育ちに向けての学習と言っても良いでしょう。

こども自身が「やりたい!」という意欲を持ち、夢中になって取り組む、そのプロセスの中に沢山の学びがあるんです。

その取り組みや活動の中で感じるうれしさや楽しさを体験して行く事や、「これ!どうなっているのかな?」と疑問を持ち調べたり試したりする中にも沢山の学びがあるんです。

失敗の経験から工夫をしたり、仲間と力を合わせる中にも学びがありますね。むしろ失敗から学ぶ事の方が多くて、その学びは大きいでしょうね。

この事は私が勧める「遠まわりの勧め」です。

このようなこどもの「あそび」が「こどもの根っこ」を育ててくれます。課題や目標に向かい、失敗しても失敗してもあきらめず、涙と汗を流して「出来た!!」時の喜びは大変なものです。自分が沢山の苦勞(遠まわり)をして来たから、仲間が苦勞をしていると応援してくれます。思いやりです。自分で育てた「心」です。「根っこ」です。

先ほどプロセスという言葉が出てきましたね。出来るようになる迄の経過の事です。苦勞のプロセスがこどもたちの心を育てるのです。「心の力」と「体の力」と「学ぶ力」を育てるのです。努力を積み重ねる大切さを知ることになります。これからの育ちで沢山の課題に直面するでしょう。それを一つ一つ乗り越える力が「生きる力」です。見守ってください!